

### 「県警が証拠偽造」

### えん罪と賠償請求

### 白バイ事故で運転手側

平成十八年三月、高知市春野町の国道55号で白バイとスクールバスが衝突し警察官が死亡した事故で、元バス運転手と妻が四日までに、「県警に偽造された証拠でえん罪を負わされた」として、県や県警などを相手に一千万円の損害賠償を求め訴訟を高知地裁に起こした。

訴状によると、事故は白バイが公道での違法な追尾訓練中に起きたもので、県警は訓練を隠そうとして路面に揮発性の液体をばけで塗ったか、現場写真をコンピュータ処理で加工してバスのスリッパ痕を偽造し、元運転手に過失を押し付けた。また県には県警を監督する責任があったとしていいる。

元運転手は業務上過失致死罪で禁固一年四月が確定し、服役中。四日に会見した元運転手の代理人は「県警のハイテクを使った証拠偽装に裁判所が気付かなかつたため、でたらめな判決になった」と話した。県警は「訴状が届いておらずコメントできない」としている。

高知新聞

## 被告、前知事から県に変更

### 春野町（現高知市春野町） 白バイ訴訟 原告「組織責任問う」

春野町（現高知市春野町）で06年、スクールバスと衝突した県警交通機動隊の白バイの隊員が死亡した事故で、慰謝料など約一千万円の国家賠償請求訴訟を起した元運転手（55）の支援者らが4日、県庁で記者会見した。原告側代理人の生田暉雄弁護士は、当時の橋本大二郎知事を被告に

含む方針だったが「組織の責任を問いたい」として知事個人ではなく県などを被告にしたことを明らかにした。

会見したのは元運転手の家族や支援者ら。生田弁護士は「事故を捜査した県警自身が事故の当事者であって、本来県警が捜査するのは妥当ではなかった」と主張。元運転手に禁固1年4カ月（求刑禁固1年8カ月）を言い渡した07年6月の高知地裁判決につい

て、「検察官の言うことの丸写し」とした。

生田弁護士によると、今年2月末に高知地裁に発送した訴状では、橋本・元知事と鈴木基久・元県警本部長ら個人7人を被告にしていた。しかし今月初めに同地裁に出した訴状では、県と県警を被告に加え、橋本・元知事を外した。今後、2月末発送分の訴状は取り下げの方針だとい